

## 令和4年度第1回砂川市総合教育会議

○日 時 令和4年12月20日(火) 9:00~10:30

○場 所 砂川市役所 3階 市長会議室

○出席者

(構成員)	市 長	善岡 雅文
	教育長	高橋 豊
	教育長職務代理者	住 亮太郎
	教育委員	平間 芳樹
	教育委員	皆上 嘉代
	教育委員	坪江 利香

(事務局)	政策調整課長	玉川 晴久
-------	--------	-------

(教育委員会事務局)	教育次長	峯田 和興
	指導参事	小林 晃彦
	学務課長	是枝 貴裕
	学校再編課長	作田 哲也

○議事録

### 1. 開会

玉川：今日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。ただいまから、令和4年度第1回砂川市総合教育会議を開会します。はじめに、善岡市長よりご挨拶を申し上げます。

### 2. 挨拶

市長：今回から新たに教育委員になりました坪江利香さんが参加されるということで、新しい考えを聞けるのではないかと楽しみにしております。坪江さんは、砂川市の色々な委員会・審議会に参加していただいております。協働のまちづくり指針策定協議会委員、子ども子育て会議委員、社会教育委員、庁舎建設検討審議会委員、行政相談委員、総合計画審議会委員を歴任され、行政に対し、委員として色んな意見をいただい

ていると聞いております。初めての出席となりますが、本日はよろしくお願ひいたします。

玉川：これ以降の進行については、設置要綱第4条に基づき、議長となります市長をお願いします。

市長：議題に入る前に、本会議は原則公開としているところではありますが、本日の会議については、(2)「令和4年度 いじめアンケートの集計結果について」及び(3)「令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について」は、個人情報に関する案件であることから、非公開で行いますのでご了承願ひます。

### 3. 議題

#### (1)「小中学校の適正規模・適正配置について」

市長：議題(1)「小中学校の適正規模・適正配置について」、事務局より説明いたします。

—作田課長より資料に基づき説明—

市長：ただいま「小中学校適正規模・適正配置について」、教育委員会より説明がありました。委員さんから何かご意見やお考えがあればお聞かせいただきたいと思ひます。

皆上：教育は人づくりで大切な場所なので、校舎が新築でなかったらとても残念なことと思ひていました。市や国にとっても全ての礎は人づくりなので、校舎が建って砂川の新しい歴史が始まるところで中途半端なようなことはいけないと思ひます。

市長：お金をかけるべきところはしっかりかけないといけないが、全部やるのは無理。だから、現状でいいものは使いたい。例えば、公民館は耐震化で十分なので、中だけ綺麗にすれば新築と変わらないようになる。建て替えてほしいと言う人もいたが、使えるものは使う。今回の義務教育学校については、あり方が根本的に変わってしまうのと、統合の問題も絡んでいるので、ずっと人を育てるのであれば新しいものを作るべきだと思ひますが、それは教育委員会の問題なので私は発言したことがない。ただ、既存の中でやるのは少し無理があると思ひます。

義務教育学校になったら成績の格差は解消されるだろうか。学校の先生には難しい問題が色々あり、人が足りず業務がすごく増えている実態を知っているので手が回らないのだからと思ひます。私ができることといえば、公設の学習塾で成績不振にある

子を一定のレベルまで持って行くこと。ただ、そういう子たちはなかなか来てくれなかった。

住：市長、最近小学校の授業に行きましたか。

市長：国語の授業が好きだからよく行っている。

住：今、ICT化が進んでいてタブレットを使っている。一方で、そればかり使っているので、文字や漢字が書けなくなっているそうです。また、タブレットを置くと他の物が置けないほど机が小さいようで、コロナの給付金を使って北光小学校ではアダプターやタブレットのスタンドをつけたようです。砂川小学校では、鍵盤ハーモニカだと飛沫が飛ぶのでキーボードを買ったようです。色々な学校で違う物を買って差が生まれています。

教育長：コロナ対策の交付金は一律同じですが、学校長の裁量権で執行するため買うものが違う。

皆上：学校の規模によって数を揃えなければいけないというものがあるので、整備が可能な学校と不可能な学校がある。

住：ICTの学校間格差もある。

皆上：今回の統合にあたって、学校名、校歌、校章、校旗全てが砂川中学校のものになった。新しい義務教育学校に先駆けて、制服、ジャージを変えるのではなく、既存の物を使うことになった。石山中学校の子ども達は心にどこか悲しみや不安を抱えていくことになるのでケアが必要だと思う。

市長：新しく作った方が良かったのか。

平間：その方が変な問題は出てこないです。

皆上：制服だけでも新しく早めにできていればよかった。

市長：もう決まってしまったのか。

教育長：準備委員会があり、学校同士でプロセスを踏んで決めた。

市長：教育委員会が決めたわけではないのか。

教育長：準備委員会から上がって決めた。

皆上：PTAを含めた委員会の決定になるが、子ども達はきっと大人だけで決めたことだと思っている。

市長：数が多い砂川中学校の意見が通ったパターンなのか。

皆上：3年間という短い期間だからそれでいいのではないかという大人の意見が通ってしまった。

市長：大人の意見というのは父兄か。

皆上：父兄と統合準備委員会の意見。

住：お下がりを使うとか経済的な面もあるので。

市長：大人の事情があるのか。

皆上：その会議においてどこまで発想があるかによると思う。

平間：昔は統合したときに色々な問題があり、子どもが荒れるというのは、外側にエネルギーを出すということ。今の子ども達は外側にエネルギーを出すということを持ち得ていない子が多いので、内側に入って不登校になる。

皆上：今の砂川中学校のいいところは、寝たり、ぼうっとしたり、授業に参加しない子ども達がすごく減った。先生からは、子ども達に対する理解や慈しみ、尊重することを大切にして交流することを一つの大きな柱に据えてやってきたというお話があった。

市長：やはり先生の指導力によるのか。

皆上：義務教育学校になった最初の3・4年の教員、管理職はすごく大切になると思う。この学校はこういう学校なんだという風土を作っていくと、後から入ってくる先生達も、この学校ではこういう風にするものなんだとなる。

平間：スタート時点できちんとできる先生を確保しないとイケない。

皆上：石山中学校の子ども達が、新しく会う砂川中学校の先生と早い段階で交流して、安心感や信頼関係を育てていく機会を早い段階で設けられたらいいと思う。

市長：交流は既にやっているのか。

皆上：授業交流も始まっています。実際にこの先生は安心できて授業も楽しいと思えることが大事。やはり人だと思う。

市長：建物のハードの問題よりソフトなのか。

平間：この前の閉校記念式典に、私がいた時の卒業生がいました。石山中学校の非常に優秀な先生がきっかけで、採用試験に受かって数学の教員になるとのことでした。

市長：その先生に憧れたのか。

平間：そうだと思います。あんなに楽しい数学の授業はなかったと言っていたので。

皆上：その先生に教わった学生に、今教育大で数学科に進んでいる人がいます。先生との出会いはすごく大事だと思う。

平間：私たちが授業を見ていても楽しいです。

市長：天性のものなのか。

平間：そう思います。

市長：そういう人は既存の考えをそのままやらないのだろう。

平間：そういう授業をすると子どもは寝ないです。

市長：常に大きい声を出して、メリハリつけて飽きさせないようにしている。

平間：当然中学校の数学なので差がすごくある。ただ、できない子に対してもしっかり見ている。何が大事かというところ、理解できたかどうかよりも、楽しかったという方が大人

になったときに成長するのではないかと思う。

※（2）以降は非公開